

消防訓練実施一覧（令和5年度）

No.	行政区	実施日	事業所名称	訓練概要
1	北	6月16日	北図書館	火災図上訓練、新人職員に対する消防用設備等の取扱い訓練
2	北	7月10日	特別養護老人ホーム 鳩の丘	D I G（災害図上訓練）
3	北	7月13日	グループホーム めいほくの憩	D I G（災害図上訓練）
4	北	7月21日	わくわく安井の家	水害D I G（災害図上訓練）
5	北	7月31日	アトリエ・ブルート	水害D I G（災害図上訓練）、簡易水防工法訓練
6	北	8月29日	東邦ガス株式会社 北事業所	屋内消火栓設備の取扱い訓練
7	北	10月23日	そんぽの家S城北	火災図上訓練（消防隊と合同で実施）
8	北	10月23日	名古屋市青少年プラザ	屋内消火栓設備を使用した初期消火訓練
9	港	11月2日	株式会社U A C J 名古屋製造所	防火・防災訓練（浸水対策訓練）
10	港	11月10日	東亜合成株式会社 名古屋工場	石油コンビナート等特別防災区域での災害対応訓練
11	北	11月27日	国分中部株式会社	D I G（地震編）、避難訓練
12	北	11月30日	ナーシングホームO A S I S	火災図上訓練、電気火災についての注意喚起
13	北	12月25日	北医療生活協同組合 北病院	D I G（地震編）、応急トイレ設営訓練

訓練記録表

タイトル	名古屋市北図書館にて火災図上訓練を実施
日時	令和5年6月16日
場所 (事業所名等)	北区 北図書館

概要

令和5年6月16日、北消防署は北文化小劇場と合同庁舎となっている北区の文化中心である北図書館と火災図上訓練を実施しました。

訓練は、火災発生時の初動対応能力の向上を目的に、1階の北図書館内で火災が発生したと想定して行いました。



写真1 火災図上訓練の様子

また、今年度採用された職員の方を中心に図書館内にある消防用設備等の種類や取り扱い方法を十分に認識していただけるよう、実際に設備を見てもらいながら説明も併せて行いました。



写真2 屋内消火栓設備の取り扱い方法を確認している様子

訓練の結果、参加者からは「火災発生場所を踏まえて避難経路を決めて、お客様の誘導を最優先に行うことが大切ではないか。」「体力があまりない人が多い。初期消火をどこまでやるのか?」「通報は誰がどのタイミングで何を伝えるのか。」など積極的な意見交換がなされました。

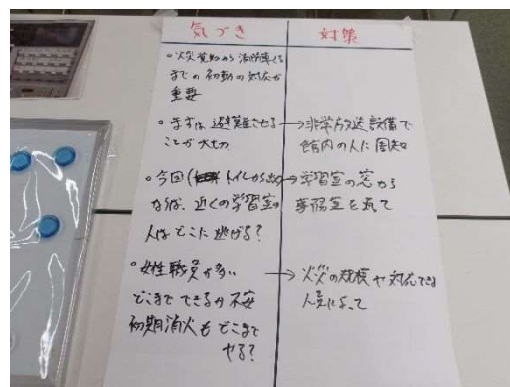
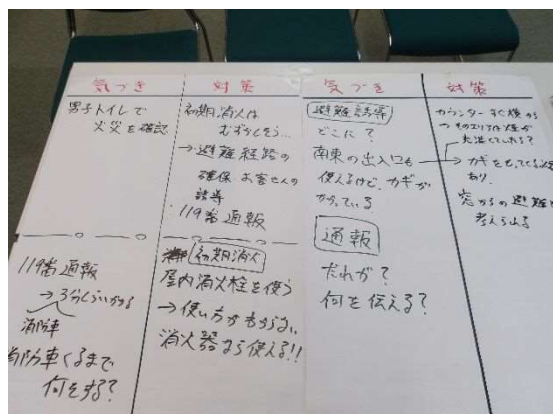


写真3 意見交換の結果

初めて行われた火災図上訓練については、参加者から「火災時に具体的にどんな行動が必要なのか改めて考える良い機会となった。」との声をいただきました。

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：O3yobokacho@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	特別養護老人ホーム 鳩の丘で DIG(災害図上訓練)を実施
日時	令和5年7月10日
場所 (事業所名等)	北区 特別養護老人ホーム 鳩の丘

概要

令和5年7月10日、北消防署は大規模福祉施設 特別養護老人ホーム 鳩の丘とDIG(災害図上訓練)を実施しました。

訓練は、新ハザードマップの想定を知っていただくこと、この施設の水害の被害想定を知っていただき、水害に対する備えを確認することを目的に、超大型の台風が沖縄東の海上に発生したと想定して行いました。



写真1 災害図上訓練の様子

また、今回の参加者は施設の防災委員会の方を中心に行いました。備蓄品の設置場所、土嚢の保管場所、個数、設置方法などしっかり準備されていました。入所者さんの生活スペースは2階以上であり、断水、停電の対処など計画が綿密に作られており消防職員も参考になりました。



写真2 タイムラインを作成している様子

訓練の結果、参加者からは「ハザードマップより名古屋市防災アプリがわかりやすい。」
「タイムラインを利用して被害を少なくできる。」「この施設の洪水時の水位がわかり対応
の仕方、計画を見直すことが必要。」など積極的な意見交換がなされました。

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：03yobokacho@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	グループホーム めいほくの憩で DIG(災害図上訓練)を実施
日時	令和5年7月13日
場所 (事業所名等)	北区 グループホームめいほくの憩

概要

令和5年7月13日、北消防署はグループホーム めいほくの憩と DIG（災害図上訓練）を実施しました。

訓練は、新ハザードマップの想定を知っていただくこと、この施設の水害の被害想定を知っていただき、水害に対する備えを確認することを目的に、超大型の台風が沖縄東の海上に発生したと想定して行いました。



写真1 ハザードマップを確認している様子

まず消防職員が施設の図面を用いて備蓄品の設置場所、土嚢の保管場所、個数、設置方法などを参加従業員の方に質問しました。そしてまだ対策がなされていないことはどんな対策が立てられるか相談するとともに、すでに対策が立てられている事項をタイムラインに書き込みながら台風接近のシミュレーションを行いました。備蓄品の位置、数量、土嚢の保管場所、土嚢の作り方、数量など一部の従業員しか知らなかったことを参加した従業員みんなで確認できました。



写真2 タイムラインを作成している様子

訓練の結果、参加者からは「ハザードマップより名古屋市防災アプリがわかりやすい。」
「断水時のトイレの準備をしなければ・・・。」「1 階の利用者さんは河川水位情報をしっかりと確認して停電になる前にエレベーターで 2 階に生活用品も含めて移動しないとね。」
「避難場所は小学校だけど冠水した道路を歩いて避難するのは危険なので 2 階避難で良いのですか。」など積極的な意見交換がなされました。

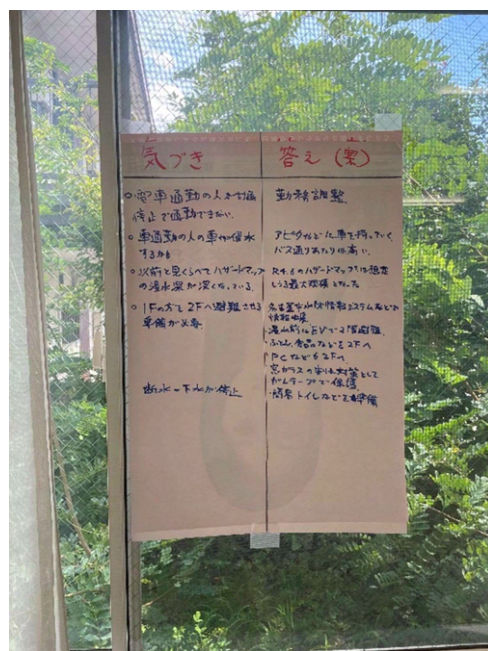


写真3 意見交換の内容

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：O3yobokacho@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	福祉施設わくわく安井の家で水害 DIG(災害図上訓練)を実施
日時	令和5年7月21日
場所 (事業所名等)	北区 わくわく安井の家

概要

令和5年7月21日、北消防署は福祉施設わくわく安井の家において水害 DIG（災害図上訓練）を実施しました。

訓練は、新ハザードマップの想定を知っていただくこと、この施設の水害の被害想定を知っていただき、水害に対する備えを確認することを目的に行いました。

訓練想定は負荷を最大限とするため、施設の使用状況をショートスティの入所者が1名3階に入所、通常通りデイサービスを行っている状況とし、超大型の台風が名古屋市に直撃し、線状降水帯が発生したと想定して行いました。



写真1 ハザードマップを確認

まず事前準備として消防職員がハザードのマップの説明を行い、洪水と内水氾濫の違いなどの水害に関する基礎知識や、施設の危険度を従業員の方に理解していただきました。図面を用いて備蓄品の設置場所、土嚢の保管場所、個数、設置方法などを従業員の方に確認してもらいました。

続いて天候変化、大雨注意報、暴風警報、線状降水帯発生情報などの発令、付近の道路の冠水状況写真、堤防の決壊状況写真を提示しタイムラインに従業員の行動を書き込んでもらいました。

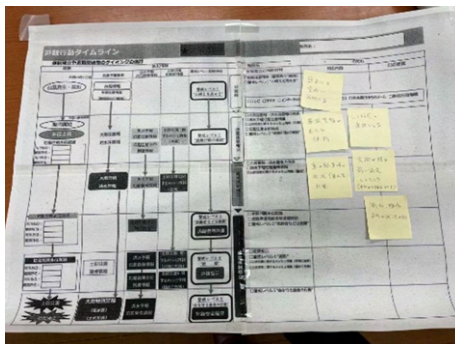


写真2 作成したタイムライン

訓練の結果、「わくわく安井の家」様は、防災対策がしっかり従業員の皆さんに周知されており被害の発生もある程度軽減できることがわかりました。さらに必要な行動として以下のまとめを行い、従業員で共有しました。

気づき	答え(案)
・強風で飛ぶものがある	・目撃等をはつ。
・通勤経路で川とこえる職員がいる。	・危険性を自分の判断 →防災アプリも参考にレベルを決めておいて良い。
・通勤等で使う車は浸水するかも。	・ライングループで情報共有する ・高い場所に移動した方が良いが難しい。 →人命優先
・迷入水等でトイレも使用できなくなる。	・休所する？
・備蓄食が1F倉庫にある	・事前に上階に移動する。

2/25
わくわく安井の家様

写真3 意見交換の内容

鵜川施設長からは「水害に対応した訓練は、企画が難しいので初めての体験でしたが、楽しく参加できました。」とありがたいお言葉をいただきました。

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：O3yobo@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	福祉施設アトリエ・ブルートで水害 DIG と簡易水防工法訓練を実施
日時	令和 5 年 7 月 3 1 日
場所 (事業所名等)	北区 アトリエ・ブルート

概要

令和 5 年 7 月 3 1 日、北消防署は福祉施設アトリエ・ブルートにおいて水害 DIG（災害図上訓練）と簡易水防工法訓練を行いました。

訓練は、施設長が新ハザードマップの被害想定に非常に詳しいことから、水害が発生するシナリオを展開し質問にお答えし実際に簡易水防工法を見せてもらうことを目的に行いました。訓練には他の従業員の方が営業中のため参加できないことから、後日の会議で従業員の方が共有できるように行いました。

訓練想定を超大型台風が発生した影響で、線状降水帯が午前中に発生したというリスクの高いものとししました。現在策定されている従業員の行動をタイムラインに付箋で記載していきました。



写真 1 タイムライン作成中

図面を用いて備蓄品の設置場所、止水板の保管場所を確認しました。女性従業員でも止水板が設置できるように非常に軽量で素早く設置できるものが準備されていました。（写真 3、写真 4 参照）

訓練中、施設の方からの質問として「今年度から備蓄品を集中配置に変更したが、分散配置の方が良いのか。」「避難所の開設はどこに確認すればよいのか。」「国土交通省の情報では、6 月 2 日の大雨時の河川状況がわかりづらかった。どのように情報収集すればよいのか。」など内容の濃いものとなりました。

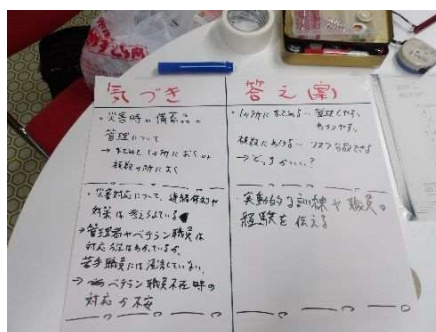


写真2 質問のまとめ

水害 DIG 後、止水板の設置方法を実際に行ってもらいました。

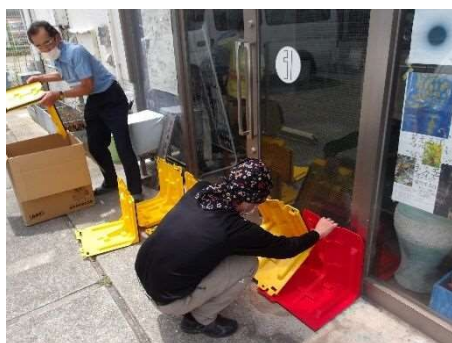


写真3 設置作業



写真4 設置後の様子

「浸水を経験し、臨機応変な対応ができるベテラン職員が減少しているので今日の訓練を活用したい。」「金城学区に同じ経営者の事業所があるので水害対策を改正する必要があるかも。」とありがたいお言葉をいただきました。

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：O3yobo@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	屋内消火栓放水訓練
日時	令和5年8月29日
場所 (事業所名等)	北区 東邦ガス株式会社 北事業所

概要



屋内消火栓設備が事業所に設置されていても、実際に放水訓練をされることは少ないと思います。今回は消防署から職員が出向し、ホースの延長方法などを含めて操作方法を指導するとともに参加者全員に放水体験をしてもらいました。

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119
Email：03yobo@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	そんぽの家S城北にて消防隊と火災図上訓練を実施
日時	令和5年10月23日
場所 (事業所名等)	北区 そんぽの家S城北

概要

令和5年10月23日、北消防署はサービス付き高齢者向け住宅 そんぽの家S城北とFIG（火災図上訓練）を実施しました。

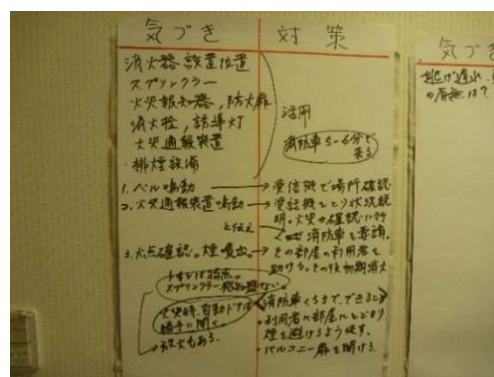
FIG 実施前に事業所の方と消防隊と一緒に消防用設備等の設置位置、活用方法、消防活動上の障害、出入口の施錠の有無、消防車駐車位置を実物を見ながら確認しました。

その後のFIGでは火災の対応について意見交換する中で、「トラッキングによる火災の対策として清掃の実施。」や「感知器やスプリンクラーの設置がないトイレは、火災を覚知しにくい。」などの気づきがありました。



災害発生時に現場へ出動する消防隊は、現場での活動において情報収集が重要であるという観点から、事業所の方には逃げ遅れた人や負傷者の有無などの情報の把握を理解していただきました。

10月から北消防署で研修中の新人消防官も参加し、今後の業務のスキルアップにつながる良い機会にもなりました。事業所と消防署の相互にとって非常に有意義な訓練となりました。





訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：03yobo@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	消火器、屋内消火栓設備を使用した初期消火訓練
日時	令和５年１０月２３日
場所 (事業所名等)	名古屋市青少年プラザ

概要



大きな建物内でよく見かける屋内消火栓設備ですが、実際に使用し、放水を行ったことがある方は少ないと思います。今回は 10 月から北消防署で研修中の新人消防官が出向し、屋内消火栓設備の使用方を指導し、参加者の方々に放水体験をしていただきました。

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：０５２－９８１－０１１９
Email：03yobo@fd.city.nagoya.lg.jp

タイトル	株式会社UACJ名古屋製造所内で防火・防災訓練を実施しました。
日時	令和5年11月2日（木）14時40分
場所 （事業所名等）	株式会社UACJ名古屋製造所

概要			
株式会社UACJ名古屋製造所は、車のバンパーや飲料缶等の材料として用いられるアルミニウム板材の製造・加工を行っており、年間30万トン以上量産する国内最大級の製造拠点です。 日頃から災害に備えて定期的に消防訓練を行っており、今回は「大規模地震によりアルミニウム製造ラインから火災等の被害が発生した」という想定で防火・防災訓練を行いました。			
 従業員の人員確認  不活性ガス消火設備 操作訓練  空気呼吸器の着脱訓練			
訓練のポイント！（独自に開発・製造した浸水対策について）			
  イメージ図			
株式会社UACJ押出加工が製作している防災用止水板「水用心」を活用し、津波や内水氾濫等に伴う建物内の浸水対策を行いました！ 訓練時、設置作業は女性1人でしたが、簡単に素早く設置することができました！			
訓練についてのお問い合わせ先			
名古屋市港消防署 TEL:052-661-0119 / FAX:052-653-0119			

訓練記録表

タイトル	石油コンビナート等特別防災区域で災害対応訓練を実施
日時	令和5年11月10日（金曜日）14時00分
場所 （事業所名等）	東亜合成株式会社 名古屋工場

概要

危険物の製造所や貯蔵所が密集している一部の地域は、災害の特殊性に鑑み、「石油コンビナート等特別防災区域」として指定されており、施設の設置維持管理等の基準がより厳しく規制されています。

東亜合成名古屋工場もその区域内にあり、今回は災害発生時に事業所の防災活動を迅速かつ的確に実施することや自衛防災組織及び公設消防機関との連携活動の再確認を目的としたシナリオ非提示型訓練（※）を実施しました。

（※）シナリオ非提示型訓練とは、訓練参加者に事前に訓練に関する情報を与えず、想定のみを与える実践的な訓練です。

【訓練想定】

震度6強の直下型の地震が発生し、周囲を緊急点検したところ、危険物タンク受け入れ口から危険物（アクリル酸）が噴出し、その後の余震による衝撃火花で火災が発生した。



漏洩した危険物に対して、化学防護服を着用し、風上を考慮しながら、適切な消火活動を実施していました。



対策本部室にて、従業員の避難状況、災害状況や危険物施設稼働状況等の各種情報を集約化することで、現場職員へ適切に指示・助言を行うことができていました。

激しい雨や風速が強く、厳しい状況下でしたが、訓練参加者間で無線やホワイトボードを活用しながら、情報を共有し、円滑に活動することができていました。

訓練についてのお問い合わせ先

名古屋市消防局港消防署 TEL:052-661-0119/FAX:052-653-0119

訓練記録表

タイトル	国分中部株式会社にて DIG（地震編）を実施
日時	令和 5 年 11 月 27 日
場所 (事業所名等)	国分中部株式会社

概要

「DIG」とは、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字をとって名付けられた机上で行う訓練です。ハザードマップ、避難所マップ、建築物の図面を使用して職場に潜む災害の危険性を「見える化」し、こうならないためにはどうすればよいかをみんなで考える、頭の防災訓練です。

令和5年11月27日、北消防署は加工食品、酒類などの流通を行っている国分中部株式会社において避難訓練と DIG（地震編）を併せて実施しました。

訓練は、地震発生後商品加工実習室内の厨房設備から出火したとの想定で避難訓練を行った後、安全衛生委員会の席上でその結果を踏まえて DIG（地震編）を行い、初動対応能力の向上について、意見交換を行いました。



写真1 「シェイクアウト訓練の様子」



写真2 「避難訓練の様子」

避難訓練の結果、参加者から「今年は地震発生から安否確認点呼までの時間を大幅に縮小できた。」など意見が発表されました。地震発生時の部署ごとの役割分担や避難誘

導放送のやり方について積極的な質問がなされました。

また、DIG（地震編）においては、安全衛生委員の方から、「エレベータに閉じ込められた時の箱内用連絡電話の位置を教えてください。」や「自動火災報知設備が鳴動したとき、ベルは止めても良いのですか。止める方法も教えてください。」との質問があり、その説明も併せて実施しました。



写真3 「エレベータ用電話などの取り扱い方法を確認している様子



写真4 「DIG（地震編）の様子

初めて行われた DIG（地震編）については、参加者から「従来の訓練と違い、初動対応には具体的にどんな行動が必要か改めて考えるよい機会となった。」「停電時にハイブリット車両の電源を非常電源として使用する計画をしているが、車両と繋ぎ電気を取る方法は一部の人しか知っていないので準備しても活用できないのではと心配になった。」との声をいただきました。

DIG（地震編）は、シナリオ通りに活動をする従来型の消防訓練と異なり、訓練参加者の全員が、地震時事業所において発生し得るトラブルの対応を一緒になって考えるものであり、従業員の方の初動対応能力の向上や新たな課題の発見等到大変効果のある訓練です。

北消防署は、今後も DIG（地震編）を積極的に推進していきます。実施にあたっては消防署が全面的に支援していますので、ご興味のある方は是非お電話にてご相談ください。

以上

訓練についてのお問い合わせ先
北消防署予防課 TEL：052-981-0119 Email：O3yobo@fd.city.nagoya.lg.jp

訓練記録表

タイトル	社会福祉施設において FIG（火災図上訓練）を実施。電気火災の原因も訓練内容に含め火災予防対策も行いました。
日時	令和 5 年 11 月 30 日
場所 (事業所名等)	ナーシングホーム OASIS 北

概要

令和5年11月30日、北消防署は介護事業を行っているナーシングホーム OASIS 北様と火災図上訓練を実施しました。

訓練は、火災発生時の初動対応能力の向上を目的に、2 階で火災が発生したのを想定して行いました。



写真1 「火災図上訓練の様子」

また、若い職員を中心に、施設内にある消防用設備等の種類や取り扱い方法を十分認識していただけるよう、訓練の前に避難器具、火災表示灯、防火戸、パッケージ型消火設備の場所や取り扱い方法の説明も併せて実施しました。



写真2 「ハッチ式救助袋の位置取り扱い等を確認している様子」

参加者から日頃から消火器、パッケージ型消火設備、避難器具の設置場所を把握しておくことの重要性や、火災通報装置、パッケージ型消火設備を実際に使用した消防訓練の提案がされました。また、火災発生時の1階と2階の役割分担や連携のあり方についても積極的な意見交換がなされました。

またホーム長から、「居室内で医療機器を多く使用しています。火災危険の話もしてほしい。」との要望もあり電気火災のチラシを配布し、年末大掃除の注意点をアドバイスできました。



写真3 「意見交換の様子」

火災図上訓練は、シナリオ通りに活動をする従来型の消防訓練と異なり、訓練参加者の全員が、事業所において火災が発生した時の対応を一緒になって考えるものであり、従業員の方の初動対応能力の向上や新たな課題の発見等到大変効果のある訓練で

す。

参加者から「火災図上訓練は初めてであったが、従来の訓練と違い、建物図面を見ながら、職員全員の行動が具体的に把握ができ、初動対応が少ない職員であっても連携により被害の軽減が達成できることを「見える化」するよい機会となった。」との声をいただきました。

北消防署は、今後も火災図上訓練を積極的に推進していきます。実施にあたっては消防署が全面的に支援していますので、ご興味のある方は是非お電話にてご相談ください。

以上

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：O3yobo@fd.city.nagoya.city.lg.jp

タイトル	北医療生活協同組合 北病院において DIG と応急トイレ設営訓練を行いました。
日時	令和5年12月25日
場所 (事業所名等)	北医療生活協同組合 北病院

概要

令和5年12月25日、北消防署は北医療生活協同組合 北病院様と DIG「災害図上訓練」(地震編)及び応急トイレ設営訓練を行いました。



写真1 「DIG(地震編)の様子」

過去の地震時の状況写真を見せ、震度 6 弱の揺れによる建物被害や液状化による被害をイメージでき話し合いが進みました。

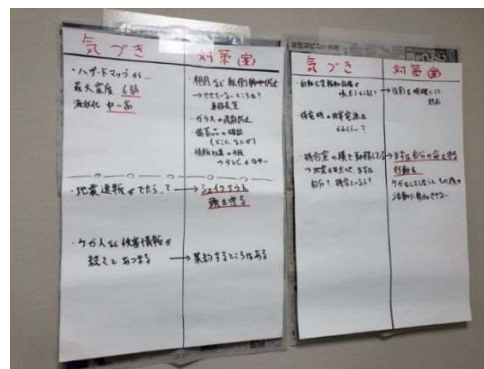


写真2 「意見交換の様子」

参加者から家具の転倒防止やガラスの飛散防止の実施状況を把握すること、指定緊急避難場所を職員に周知することや、初動時の情報の集約方法を消防訓練に取り入れるべきとの意見が発表されました。その後、応急トイレ設営訓練を行いました。



写真3 応急トイレ設置場所

北病院における応急トイレは、屋根付きの屋外で清掃がしやすいタイル張りの場所に 3 か所設置し、便座及びパーテーションは病院内で使用されているものを流用する計画であるとの説明を受けました。



写真4 応急トイレ設置訓練の様子

北消防署は、今後も FIG「火災図上訓練」、DIG「災害図上訓練」(水害編)、DIG(地震編)を積極的に推進していきます。実施にあたっては消防署が全面的に支援しますので、ご興味のある方は是非お電話にてご相談ください。

以上

訓練についてのお問い合わせ先

北消防署予防課 TEL：052-981-0119

Email：03yobo@fd.city.nagoya.lg.jp